

2006年(平成18年)9月16日発行

金木犀の花



花を白ワインに浸けてつくったり、フェイユールが好んで飲んだとか。

「強い芳香で秋の到来を告げる花。お茶やお酒の香りづけに使われる。」

中秋の頃になると、どこからともなく甘い香りが漂ってくる。春のチンチョウゲと並び、キンモクセイは甘い香りが季節の変わりを知らせてくれる。(この頃が二十四節気の一つ『寒露』旧暦九月の節。今年は、十月八日)

中国では、この香りをお茶に移して「桂花茶」、お酒に移して「桂花酒」を醸しむといわれている。

学名のオソマンツはギリシア語で「香りのある花」の意味である。和名の木犀は漢名の音読みで、木の肌が動物の犀(サイ)に似ていることによる。なお、金木犀の金は橙黄色の花色による。香りが遠くから風に乗ってやってくることから「九里花」ともいう。日本に渡来したのは、江戸時代初めとされるが、万葉集にあることより、一説には七〜九世紀の遣唐使が桂

林より種を持ち帰ったと言われている。

目には見て手には取らへぬ
月の内の
楓(かつら)のごとき
妹をいかにせむ

湯原王

目には見えても手に取る事ができない月の桂の木のようなあなたをどうしたらよいのだろう

湯原王は、志貴皇子の子(志貴皇子は天智天皇：中大兄皇子の子)で万葉集に顔をのぞかせるが、それ以外での記述は見当たらない。

強い香りのきんもくせいには誰もになじみのある花木のひとつです。秋に、小さなオレンジ色の花を無数に咲かせ、甘い香りで包みます。

このきんもくせい、香り以外にもおもしろい効果があります。それは花が歯の痛みに効くという事です。花をとり陰干しし、乾いたも

植物の力 ~ きんもくせいの意外な効果 ~

のに熱湯を注いで服用します。(うがいでもよい)痛みが和らぎます。是非お試しください。



万葉集より

唐の伝説で月には桂(かつら)が生えているというのがあり、中国ではきんもくせいのことを桂花という。月の影があたかも桂のように見えるらしい。彼の住まいの近くに桂花があったらしいことから、この歌のかつらはきんもくせいではないかといわれている。

キンモクセイ雑感

日本のキンモクセイは「オス」の木ばかり!

もともとキンモクセイの木は雌雄別々ですが、日本には何故か雄の木だけが入ってきたため、全て雄の木だけで雌の木はありません。

そのため、実を結ぶことがなく殖やすには接木によっています。また、仲間のギンモクセイも同じ理由で、植えられているのは全て雌の木です。なお、キンモクセイの花には浴用効果があります。疲労回復・精神安定美容に効果があるそうです。

